



世界文化遺產
特別史跡

平城宮跡

奈良文化財研究所

平城京と平城宮



転々とする都

平城京

和銅3年(710)、奈良盆地の北端に造られた平城京が新しい都と定められました。元明天皇が律令制にもとづいた政治をおこなう中心地として、飛鳥に近い藤原京から都を移したのです。中国・唐の長安城などを模範とした都をつくることは、当時の東アジアの中で国の威厳を示す意味もありました。

その後、桓武天皇は740年から745年まで、都を転々と移しますが、745年には再び平城京を都としました。そして、長岡京に都が移る784年までのあいだ、奈良の地が都として栄えたのです。この時期を奈良時代といいます。

平城京のメインストリートは、京の南門である羅城門から北にまっすぐのびる幅約75mの朱雀大路です。朱雀大路をはさんで西側を右京、東側を左京といいます。左京には北の方で東にさらに張り出しがありました。平城京は大小の直線道路によって、碁盤の目のように整然と区画された宅地にわけられています。平城京の住民は4〜5万人とも10万人ともいわれますが、天皇、皇族や貴族はごく少数の百数十人程度で、大多数は下級役人や一般庶民たちでした。



平城京の条坊

● 平城宮

平城京・朱雀大路の北端には朱雀門がそびえていました。朱雀門をくぐるとほぼ1km四方の広がりをもつ平城宮です。平城宮の周囲には大堀がめぐり、朱雀門をはじめ12の門がありました。

平城宮の内部にはいくつかの区画があります。政治や国家的儀式的場である大極殿・新皇殿、天皇の住まいである内裏、役所の日常的業務をおこなう官司、宴会をおこなう庭園などです。そのなかでも政治・儀式的場は、都が一時離れた時期を境にして、奈良時代の前半と後半で大きな変化がありました。奈良時代前半に、朱雀門の真北にあった大極殿（通称、第一次大極殿）が、奈良時代後半になると東側の区画で新たに建てられたのです（通称、第二次大極殿）。これに対して、内裏は、奈良時代を通じて同じ場所にありました。

これらの事実を、50年以上におよぶ発掘調査によってわかってきたことです。このうち、ほぼ正方形と考えられてきた平城宮が、じつは東側に張り出し部分をもつことがわかったことや、その際に奈良時代の庭園を発見したことなどは、発掘調査による大きな成果のひとつといえるでしょう。



奈良時代前半（上）と後半（下）の平城宮



復興した朱雀門。朱雀大路に面して開く平城京の正門。元々やむを得ずの理由の形に儀式がおこなわれたほか、都の男女が集まって恋の歌をよめるのを入場が見るといったイベントもここでおこなわれました。

平城宮の内側をのぞいてみると



第二次大戦後の遺構「ダイコウの墓」とよばれて土蔵が残っていたため、明治以降大仏殿跡と考えられてきました。ここに発掘のメスが入ったのは、1978年のことです。



第二次大規模と内閣の登場 第二次大規模といわれるにはある種の懸念は否めず、西派の派主・尾崎は、門閥的に拘りあがり、その根本で腹を割ってはいません。



発見した東院経蔵。平城宮東院で発見された奈良時代の陶器類。法興寺の建物や土のほかに、磁甎の瓦石類、高麗土器の土器など、数々の出土品がみつかりました。



復讐した東院幽囚 天皇や貴族の宮中の場を再現。建物や遺物にもとづいて復元し、庭園は石組など遺構そのものを見せながら整備しています。



酒造りの共済 大衆や狂人のための酒を造る酒造りにあった利権で、その上に六角形の土曜が造られます。1つの利権と2つの利権がわかりますか？



● 平城宮跡年表

[illegible]

圖 2-2-1 大轉輪機 1/100 模型 (1993 年作成)

大鳥籠は天皇の御座、大日の御真身と国家の儀式のときに天皇の御方がおられる建物です。御座で御された正殿には東側の御門がひらき、その両側には実徳、実徳とよんでいる御殿があったと考えています。以下はさらにその側にある式場にもお参りして大鳥籠を見ましたので

出土品が語る人びとの営み

平城宮の建設

平城宮には数多くの建物がありましたが、造営のためには莫大な資材が必要でした。発掘によって瓦、木材、石材など、建設に使われたものがたくさん見つかっています。こうした出土品は、建物の姿を推定する手がかりになるだけでなく、どのように資材を調達したかを考える材料にもなるのです。



人びとの生活

天皇をはじめ、貴族や下級役人が都で暮らしていくためには、日々の生活に必要な物資を地方から税などとして運んでこなければなりません。出土品の中には、土器などのように列島の各地からもってきたことがわかるものもあります。出土する陶器の木簡は、どの地方から何処に運ばれたのかを知るきっかけの手がかりとなるのです。



①伊賀国から運ばれたカツオの木簡

②美濃王の邸宅に運ばれたアサビの木簡

さまざまな木簡

③造田司が職員に対して出した呼び出し状



※イラストは幸田南軒手札による



食器と世帯用品 茶や酒のほか、わんや豆などの食料、箸・箸などの日常用品、釣りなどの家事用具が出土しています。

役人の仕事

律令制のもとでは、太政官以下の多くの役所がありました。役所では、現代と同様に書類によって日々の事務が処理されました。当時は紙だけでなく、木の札（木簡）に書類や帳簿を書きつけることも多く、発掘調査の際にこうした木簡がたくさん出土します。

発見 神奈川の関（天竺・高麗）の光輝をおおう玉で、筒上げの意匠がみられるものでした。表面のはみは彫刻の文様をかたどったものもあります。

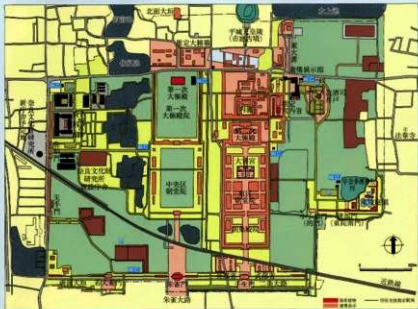


平城宮跡資料館

発掘で出土したさまざまな遺物や、建物の復元模型を展示しながら、平城宮についてわかりやすく説明しています。

遺構展示館

発掘で見つかった遺構やそのまゝ見ることが出来るほか、第二宮大御所の屋根や内庭の復元模型を展示しています。



世界文化遺産 特別史跡 平城宮跡

施設案内

平城宮跡資料館 近鉄大和寺駅から徒歩10分

遺構展示館 近鉄大和寺駅から近鉄大和寺駅行、または近鉄大和寺駅から近鉄大和寺方面行バスにて、「平城宮跡」下車。徒歩10分。

南院跡 「平城宮跡」下車。徒歩10分。

朱雀門 近鉄大和寺駅から徒歩10分。
「平城宮跡」下車。徒歩10分。
または近鉄大和寺駅から近鉄大和寺方面行バスにて、「朱雀門」下車。徒歩10分。

第一次大御所 近鉄大和寺駅から徒歩10分
近鉄大和寺駅から近鉄大和寺駅行、または近鉄大和寺駅から近鉄大和寺方面行バスにて、「第一次大御所」下車。徒歩10分。

各施設とも

- ・入場無料
- ・月曜日（月曜が祝日の場合はその翌日）、年末年始休館。
- ・開館時間 9:00～16:30（入場は15:00まで）



世界文化遺産 特別史跡 平城宮跡

〒630-8577 奈良市佐紀町247番1

独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所

Tel. 0742-30-6753 FAX 0742-30-6750

インターネットホームページ <http://www.nabunken.jp>